

## 有名曲線【サイクロイド】

座標平面上に、媒介変数  $\theta$  で表された曲線

$$\begin{cases} x = \theta - \sin \theta \\ y = 1 - \cos \theta \end{cases} \quad (0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

がある。

この曲線上の相異なる 2 点 P, Q での接線が互いに直交するとき、線分 PQ の中点の軌跡を求めよ。

< '88 岐阜大 >

### 【戦略】

$y=f(x)$  の形にして  $\frac{dy}{dx}$  を得ることができないため、

$$\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{d\theta}}{\frac{dx}{d\theta}} \text{ として、導関数に相当するものを得ます。}$$

今回、 $\frac{dy}{dx} = \frac{\frac{dy}{d\theta}}{\frac{dx}{d\theta}} = \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta}$  を得ますが、ここからもう少し踏み込んで

$$2 \text{ 倍角公式 } \sin \theta = 2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}, \text{ 半角公式 } \sin^2 \frac{\theta}{2} = \frac{1 - \cos \theta}{2}$$

でほぐしていくと、 $\frac{dy}{dx} = \frac{\cos \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}}$  までシンプルに整理できます。

これが意味するのは、

$$(\theta - \sin \theta, 1 - \cos \theta) \text{ における接線の傾きが } \frac{\cos \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}}$$

ということです。

そこで、 $P(\theta_1 - \sin \theta_1, 1 - \cos \theta_1)$ ,  $Q(\theta_2 - \sin \theta_2, 1 - \cos \theta_2)$  として考えていきます。

P, Q の対称性から  $0 \leq \theta_1 < \theta_2 \leq 2\pi$  としても一般性を失いません。

2 接線に傾きが存在する  $0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi$  のときを大枠で考え、接線の傾きが存在しない  $\theta_1 = 0$ , および  $\theta_2 = 2\pi$  のときは別枠で考えます。

直交条件を手なりに翻訳していくと、 $\theta_2 = \theta_1 + \pi$  と 1 文字消去することができます。

あとは、軌跡の導出の基本 (X, Y) とおき、X, Y の満たすべき関係式を求めにいきます。

文字消去する際に、「遺産の整理」という言葉に注意しましょう。

$\theta_2$  は消えますが、 $0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi$  という生前満たしていた条件を

$0 < \theta_1 < \theta_1 + \pi < 2\pi$ , すなわち  $0 < \theta_1 < \pi$  と引き継がせます。

### 【解答】

与えられた曲線を C とすると、曲線 C に対して、

$$\begin{aligned} \frac{dy}{dx} &= \frac{\frac{dy}{d\theta}}{\frac{dx}{d\theta}} \\ &= \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta} \\ &= \frac{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}}{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}} \\ &= \frac{\cos \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}} \end{aligned}$$

$0 \leq \theta_1 \leq 2\pi$ ,  $0 \leq \theta_2 \leq 2\pi$  として、この曲線 C 上の 2 点 P, Q は  $P(\theta_1 - \sin \theta_1, 1 - \cos \theta_1)$ ,  $Q(\theta_2 - \sin \theta_2, 1 - \cos \theta_2)$  と表せる。

$0 \leq \theta_1 < \theta_2 \leq 2\pi$  として考えても一般性を失わない。

(i)  $0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi$  のとき

$$\text{点 P における C の接線 } \ell_1 \text{ の傾きは } \frac{\cos \frac{\theta_1}{2}}{\sin \frac{\theta_1}{2}}$$

$$\text{点 Q における C の接線 } \ell_2 \text{ の傾きは } \frac{\cos \frac{\theta_2}{2}}{\sin \frac{\theta_2}{2}}$$

$$\ell_1, \ell_2 \text{ が直交するので、} \frac{\cos \frac{\theta_1}{2}}{\sin \frac{\theta_1}{2}} \cdot \frac{\cos \frac{\theta_2}{2}}{\sin \frac{\theta_2}{2}} = -1$$

$$\text{これより、} \cos \frac{\theta_2}{2} \cos \frac{\theta_1}{2} + \sin \frac{\theta_2}{2} \sin \frac{\theta_1}{2} = 0$$

$$\text{これは } \cos\left(\frac{\theta_2 - \theta_1}{2}\right) = 0 \text{ と変形できる。}$$

$0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi$  の範囲では、 $\theta_1, \theta_2$  の幅  $\theta_2 - \theta_1$  の範囲は

$$0 < \theta_2 - \theta_1 < 2\pi, \text{ すなわち } 0 < \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} < \pi \text{ であるので}$$

$$\cos\left(\frac{\theta_2 - \theta_1}{2}\right) = 0 \text{ を満たすとき、} \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} = \frac{\pi}{2}$$

これより、 $\theta_2 = \theta_1 + \pi \dots \textcircled{1}$  を得る。

さて、線分 PQ の中点を  $(X, Y)$  とすると

$$\begin{aligned} X &= \frac{(\theta_1 - \sin \theta_1) + (\theta_2 - \sin \theta_2)}{2} \\ &= \frac{\theta_1 + \theta_2 - (\sin \theta_1 + \sin \theta_2)}{2} \\ &= \frac{\theta_1 + (\theta_1 + \pi) - \{\sin \theta_1 + \sin(\theta_1 + \pi)\}}{2} \quad (\because (*)) \\ &= \frac{2\theta_1 + \pi - (\sin \theta_1 - \sin \theta_1)}{2} \\ &= \theta_1 + \frac{\pi}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} Y &= \frac{(1 - \cos \theta_1) + (1 - \cos \theta_2)}{2} \\ &= \frac{2 - (\cos \theta_1 + \cos \theta_2)}{2} \\ &= \frac{2 - \{\cos \theta_1 + \cos(\theta_1 + \pi)\}}{2} \quad (\because (*)) \\ &= \frac{2 - (\cos \theta_1 - \cos \theta_1)}{2} \\ &= 1 \end{aligned}$$

また、 $0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi$  及び  $(*)$  より、 $0 < \theta_1 < \theta_1 + \pi < 2\pi$

これより、 $0 < \theta_1 < \pi$  であるので、辺々  $\frac{\pi}{2}$  を加えると

$\frac{\pi}{2} < X < \frac{3}{2}\pi$  を得るため、線分 PQ の中点の軌跡は

$$\begin{cases} \frac{\pi}{2} < x < \frac{3}{2}\pi \\ y = 1 \end{cases}$$

(ii)  $\theta_1 = 0$  のとき  $P(0, 0)$

P における接線は  $y$  軸であり、それに直交する接線の傾きは 0

ゆえに、 $Q(\theta_2 - \sin \theta_2, 1 - \cos \theta_2)$  における接線の傾きについて

$$\frac{\cos \frac{\theta_2}{2}}{\sin \frac{\theta_2}{2}} = 0, \text{ すなわち } \theta_2 = \pi \text{ を得る。}$$

これより、 $Q(\pi, 2)$  であり、線分 PQ の中点は  $(\frac{\pi}{2}, 1)$

(iii)  $\theta_2 = 2\pi$  のとき  $Q(2\pi, 0)$

Q における接線は  $x = 2\pi$  であり、それに直交する接線の傾きは 0

ゆえに、 $P(\theta_1 - \sin \theta_1, 1 - \cos \theta_1)$  における接線の傾きについて

$$\frac{\cos \frac{\theta_1}{2}}{\sin \frac{\theta_1}{2}} = 0, \text{ すなわち } \theta_1 = \pi \text{ を得る。}$$

これより、 $P(\pi, 2)$  であり、線分 PQ の中点は  $(\frac{3}{2}\pi, 1)$

以上 (i), (ii), (iii) から求める線分 PQ の中点の軌跡は

$$\text{線分 } y = 1 \left( \frac{\pi}{2} \leq x \leq \frac{3}{2}\pi \right) \dots \text{ 圏}$$

### 【総括】

パラメータ表示された曲線についての接線の扱いに関して、基本的な運用力を試す問題でした。

$$\frac{dy}{dx} = \dots = \frac{\sin \theta}{1 - \cos \theta} \text{ と、ここでとまると、}$$

$$\text{直交条件} \quad \frac{\sin \theta_1}{1 - \cos \theta_1} \cdot \frac{\sin \theta_2}{1 - \cos \theta_2} = -1$$

$$\text{分母を払う} \quad \sin \theta_1 \sin \theta_2 = -(1 - \cos \theta_1)(1 - \cos \theta_2)$$

$$\text{移項して整理} \quad \cos \theta_1 \cos \theta_2 + \sin \theta_1 \sin \theta_2 = \cos \theta_1 + \cos \theta_2 - 1$$

$$\text{加法定理 \& 和積公式} \quad 1 + \cos(\theta_2 - \theta_1) = 2 \cos \frac{\theta_2 + \theta_1}{2} \cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2}$$

$$\text{半角公式} \quad 2 \cos^2 \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} = 2 \cos \frac{\theta_2 + \theta_1}{2} \cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2}$$

$$\text{因数分解} \quad \cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} \left( \cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} - \cos \frac{\theta_2 + \theta_1}{2} \right) = 0$$

$$\text{和積公式} \quad -2 \cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} \sin \frac{\frac{\theta_2 - \theta_1}{2} + \frac{\theta_2 + \theta_1}{2}}{2} \sin \frac{\frac{\theta_2 - \theta_1}{2} - \frac{\theta_2 + \theta_1}{2}}{2} = 0$$

$$\text{整理} \quad -\cos \frac{\theta_2 - \theta_1}{2} \sin \frac{\theta_2}{2} \sin \frac{\theta_1}{2} = 0$$

$$0 < \theta_1 < \theta_2 < 2\pi \text{ では } 0 < \frac{\theta_1}{2} < \frac{\theta_2}{2} < \pi \text{ で、} \sin \frac{\theta_1}{2} \neq 0, \sin \frac{\theta_2}{2} \neq 0$$

であるため、 $\frac{\theta_2 - \theta_1}{2} = \frac{\pi}{2}$  となり  $\theta_2 = \theta_1 + \pi$  を得て、本解の流れに合流

しますが、見ての通り茨の道です。

【参考】

今回扱った

$$\begin{cases} x = \theta - \sin \theta \\ y = 1 - \cos \theta \end{cases} \quad (0 \leq \theta \leq 2\pi)$$

で与えられる曲線は「サイクロイド」と呼ばれます。

水平線上を、円が滑らずに転がっていくとき、円上の定点の軌跡のことで、一言で言ってしまえば

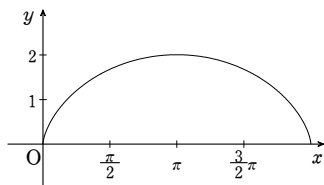
「ガムを踏んだタイヤに対する、ガムの軌跡」

です。

$\frac{dx}{d\theta} = 1 - \cos \theta \geq 0$ ,  $\frac{dy}{d\theta} = \sin \theta$  なので

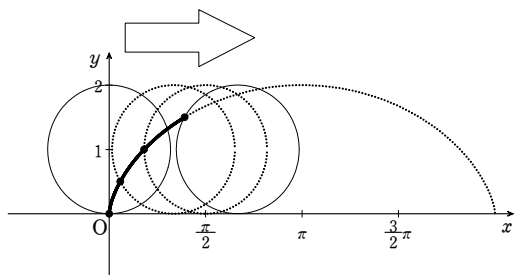
$\theta$	0	...	$\pi$	...	$2\pi$
$\frac{dx}{d\theta}$	0	+	+	+	0
$x$	·	→	→	→	·
$\frac{dy}{d\theta}$	0	+	0	-	0
$y$	·	↑	·	↓	·
$(\frac{dx}{d\theta}, \frac{dy}{d\theta})$	·	↗	→	↘	·
$(x, y)$	(0, 0)		( $\pi$ , 2)		( $2\pi$ , 0)

という増減表を得るため



のような概形となります。

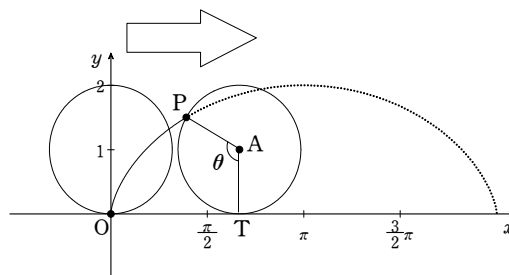
円が転がっていく様子を描くと



といった感じでしょうか。

サイクロイドのパラメータ表示を得るための手順をまとめます。

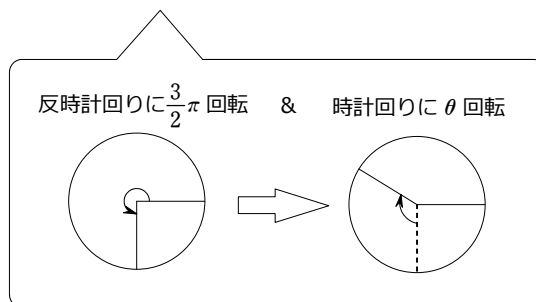
以下では半径 1 の円が転がっていくときを考えます。



図のように記号を設定します。(θの単位はラジアン)

転がった分の距離に注目すれば  $OT = \widehat{PT} = \theta$  なので

$$\vec{OA} = \begin{pmatrix} \theta \\ 1 \end{pmatrix} \quad \vec{AP} = \begin{pmatrix} \cos(\frac{3}{2}\pi - \theta) \\ \sin(\frac{3}{2}\pi - \theta) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ -\cos \theta \end{pmatrix}$$



よって、

$$\begin{aligned} \vec{OP} &= \vec{OA} + \vec{AP} \\ &= \begin{pmatrix} \theta \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ -\cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \theta - \sin \theta \\ 1 - \cos \theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となり、サイクロイド上の点 P のパラメータ表示として

$$\begin{cases} x = \theta - \sin \theta \\ y = 1 - \cos \theta \end{cases}$$

を得ます。

今は半径 1 の円で転がしましたが、一般に半径  $a (> 0)$  の円を転がして考えれば

$$\begin{cases} x = a(\theta - \sin \theta) \\ y = a(1 - \cos \theta) \end{cases}$$

ということになります。